

平成 16 年度

全国高体連バスケットボール部審判講習会並びに全国高校総体参加報告書

山口県立下関工業高等学校

教諭 有澤重行

本年度もインターハイの審判講習会に参加させていただくチャンスをいただき、
昨年の「何もわからず」から自分の成長したところが少しでも出せれば・・・と挑
みました。

○ 7 月 29 日(木) 開講式

① 講義「バスケットボールの技術の理解と適応について」講師：湯浅暢宏氏
〈審判に求められるもの〉

- ・ フィットネス
- ・ 精神力
- ・ 決断力
- ・ バスケットボール技術の正しい理解

② 講義「正しいルールマニュアルの適応について」 講師：岸田吉明氏

- ・ アローの意識
- ・ 悪い手の使い方
- ・ トラベリングの見極め
- ・ 24 秒の意識
- ・ シュートの見極め
- ・ トレイル審判の動きと視野について
- ・ リード審判の動きと視野について
- ・ 視野の継続について

○ 7 月 30 日(金) 班別トレーニング、班別ミーティング

① 班別トレーニング

講師：湯浅暢宏氏 平川孝彦氏

(1) ストレッチ

(2) トレーニング(フットワーク・ジェスチャー・1on1・トスアップ)

② 班別ミーティング

○ 7 月 31 日(土) 班別トレーニング、モデルゲーム、班別ミーティング

① 班別トレーニング

講師：湯浅暢宏氏 平川孝彦氏

(1) ストレッチ

(2) トレーニング(フットワーク・ジェスチャー・2on2・3on3 の対応)

②モデルゲーム

(1) モデルゲーム 明星学園(東京) 対 宇都宮中央 (栃木)

(2) 審判 主審：大久保純人氏(長崎) 副審：有澤重行

(3) 指導内容 講師：平川孝彦氏

- ・ トレイルでのプレスに対するポジショニングが悪い。
- ・ トレイルの位置が高いのもう一步踏み込む。
- ・ 3P時、精神的な乱れから判定が少し甘くなったのでは？

③班別ミーティング

○ 8月1日(日) 役員審判会議

○ 8月2日(月) 1回戦

① 会場 松江市立湖北中学校

② 対戦 倉敷青陵(岡山)70-60 札幌日大(北海道)

③ 審判 主審：山崎徳彦氏(福岡) 副審：有澤重行

④ 審判主任 湯浅暢宏氏

⑤ 講評

- ・ 相手のエリアを冒してまで判定しなくてもいい笛があるのではないか
- ・ 笛の先にプレイが続くケースがあるのではないか(ゲームが淡泊になる)

○ 8月3日(火) 2回戦

① 会場 松江市総合体育館

② 対戦 洛南(京都)92-67 愛産大工業(愛知)

③ 審判 主審：森田周治氏(愛媛) 副審：有澤重行

④ 審判主任 安元正彦氏

⑤ 講評

- ・ 主審がゲームを通じて基準を示してくれた中で、吹かなくてもいい笛があるのではないか。(ゲームの流れを感じて我慢する)
- ・ 相手にトレイルから助けてもらったエリア5のケースなど、自分が判定しなくてはいけないケースを頭に入れておくこと。

○ 8月4日(水) 3回戦

① 会場 松江市総合体育館

② 対戦 新潟商業(新潟)96-84 美鈴が丘(広島)

③ 審判 主審：平育雄氏(本部) 副審：有澤重行

④ 審判主任 宮武庸介氏

⑤ 講評

- ・ ゲーム展開がバタバタする中で、アンテナを敏感にしてきめ細やかな判定が出来るようにすべきである。
- ・ 1p・2p と主審がファールを取り続けた感覚と有澤が吹かなかった感覚との違いを感じて、振り返って欲しい。

○ 所感

昨年は周りが見えず、自分の持っている勢いだけで3回戦まで割をもらうことが出来ました。それから一年間、A級審査も不合格になり、自分に何が足りないかを考えながら審判活動に取り組んできました。今年のインターハイでは今現在の持っている力を発揮することが出来れば3回戦は吹けるのではないかと、運よければ4回戦も欲しいなどと自分に期待して松江に入りました。

そういう意味からは3回戦がふけて自分なりに最低限の目標を達成できてホッと、反対に昨年と違ってなぜ4回戦の笛がないのか納得できて山口に戻ることが出来ました。

今回の研修で、担当講師で審判主任もしていただいた湯浅先生にたくさんのアドバイスをいただきました。その中で「笛は吹けるんや。後はいつ吹くか、何を吹くかが有澤の課題やで。」という言葉が印象に残っています。A級審査で何が駄目で不合格だったのかを考えながら活動していましたが、湯浅先生のアドバイスが全てであり、今年4回戦を吹けなかった理由も湯浅先生の言葉が全てだと思っています。

これからの課題は自分の審判員としてのキャパをもっと大きくすることであると痛感しています。インターハイで見つけた課題を、ミニ国体(8/21,22 鳥取県)で表現したかったのですが自分のキャパを完全に超えてしまい、自分の持ち味(良いところ)さえ出せずに悔しい思いをしました。まずは自分の良いところを常に出し切る安定した部分は最低条件であり、インターハイでの経験は自分を天狗にさせていたなと反省しているところです。

自分に何が求められ、コートで何がおきているかを常に考えながら、1試合ごとに謙虚に振り返ることが上級審判への近道であるということを忘れずに取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、このような力のない人間に素晴らしい研修の場を作っていただいた山口県協会、高体連、審判部の各関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、インターハイの報告を終えたいと思えます。

ありがとうございました。